

伝統工芸を気軽に おいしく楽しもう!

1月20日スタート!!

石川の伝統的工芸品をしつらえに使ったお店がこの冬、新たに続々と登場しました!“おいしく”気軽に楽しんじやいませ! 企画は石川県中小企業団体中央会です。



取材協力: ホテル日航金沢ファウンテン



* お店で伝統的工芸品をご利用の方には
ポストカードをプレゼント!!
中に4枚美しい写真のポストカードが入っています!

詳しくは石川県中小企業団体中央会のHP <http://www.icnet.or.jp>
または076-267-7711までお問い合わせください。

伝統工芸に触れられる20店!

金沢都ホテル 珈琲サロン ☎076-261-2111 (代) ◎金沢市此花町6-10 金沢都ホテル1F ◎8~18時 ◎無休	金沢プレミナス 本店 ☎076-234-7701 ◎金沢市北安江4-8-31 ◎11時~21時30分 (LO) ◎月曜不定休	金沢なごみ亭 北都 ☎076-268-3851 ◎金沢市西都1-32 ◎11~22時 (LO21時30分) ◎第3木曜、12/31、1/1	レストランCacêna (カチェーナ) ☎076-285-2851 ◎かほく市松浜イ-23◎ラン チ11時30分~14時 (LO)、 ディナー18時~21時30分 (LO) ◎月曜 (祝日 の場合は営業)	Au milieu de la vie (オーミリュエドラヴィ) ☎076-298-8066 ◎金沢市高尾台1-54 ◎ランチ12~15時 (LO14時)、 ディナー19~21時 (LO20時) ◎日曜 (予約時営業)	金沢エクセルホテル東急 レストラン てまり ☎076-231-3913 ◎金沢市香林坊2-1-1金沢 エクセルホテル東急2F◎朝 食7~10時、ランチ11時~ 14時30分、ディナー17~22 時 (LO21時30分) ◎無休	キャラバンサライ武蔵店 ☎076-261-4151 ◎金沢市青草町88 近江町いちは館B1F ◎9~19時 ◎近江町いちは館休業日	アバホテル金沢駅前 レストラン四季 ☎076-231-8111 (代) ◎金沢市広岡1-9-28アバ ホテル金沢駅前1F◎朝食6 時30分~10時、ランチ11 時30分~14時、ディナー 17~21時◎無休
ガーデンホテル金沢 エーデル ☎076-263-3333 (代) ◎金沢市本町2-16-16ガー デンホテル金沢1F◎6時30 分~14時30分、17時30分 ~22時 (土、日、祝) 6時 30分~22時◎無休	ホテル金沢 北の庄屋 ☎076-223-1111 (代) ◎金沢市堀川新町1-1 ホテル金沢1F ◎7~23時 ◎無休	earth café veganfood & delhi (アースカフェ) ☎076-233-0722 ◎金沢市駅西本町2-12-30 ◎ (月~土) 9~18時 (祝日) 11時~18時30分 ◎日曜・ 年末年始 (事前団体予約で 応相談)	さんさんごご ☎076-238-1377 ◎金沢市木越町1-1 ◎8~19時 ◎毎週日曜日・第3月曜日	欧風料理タブリエ 片町店 ☎076-262-8087 ◎金沢市木倉町5-1 ◎ランチ11~14時 (LO)、 ディナー17~23時 ◎日曜 (予約時営業)	金沢ニューグランドホテル カフェレストラン トロド ☎076-233-1311 (代) ◎金沢市南町4-1金沢ニュー グランドホテル2F◎10~21 時 (LO20時30分) ランチ11 時30分~17時、ディナー17 ~21時◎無休	金沢スカイホテル ロビーラウンジ ☎076-233-2233 (代) ◎金沢市武蔵町15-1 金沢スカイホテル1F ◎9時30分~18時 ◎無休	ANAクラウンプラザホテル金沢 カスケイド ダイニング&ラウンジ ☎076-224-9802 ◎金沢市昭和町16-3ANA クラウンプラザホテル金沢 1F◎6~23時◎無休
ガートコーヒー岡田屋めいづエムザ店 ☎076-260-2226 ◎金沢市武蔵町15-1 めいづエムザB1F ◎10~20時 (LO19時) ◎めいづエムザに準ずる	ホテル日航金沢 ファウンテン ☎076-234-1111 (代) ◎金沢市本町2-15-1 ホテル日航金沢1F ◎10時~21時30分 ◎無休						

124もの工程があり、すべて職人による手作業



輪島塗

強さと美しさを併せ持つ 沈金、蒔絵の美しい漆器

輪島塗は、奥能登の輪島市で生産される漆器です。丈夫で、ノミの彫り跡に金箔をうめこむ沈金(ちんきん)や金粉、銀粉などを使った蒔絵(まきえ)の美しい装飾が特徴です。江戸時代中期頃に盛んになったといわれています。



先ほかしや虫食いなど高度な技法で美を表現

雅さと実用の美を 兼ね備えた木工の名器

山中漆器は、約400年以上前の安土桃山時代、木材加工を生業とする木地師(きじし)が山中に移住してきたことが始まりとされています。木地師たちのろくろ挽きによる高度な技法をはじめ、塗りや蒔絵の技術が今に受け継がれています。



色彩と装飾にうっとり 磁器の上の緻密な絵画

九谷焼は江戸時代初期に生まれて以降、現代まで画風・技法ともに多彩な作品が創られ続けています。上絵付には緑・黄を基本色とする「青手」、赤・緑・黄・紺青・紫の九谷五彩を使う「色絵」、赤を多く用いる「赤絵・金襴」などの特徴があります。

山中漆器



伝統技法の「加飾挽き」は40~50種あるとされる

九谷焼



九谷焼の命といわれる「上絵付」の工程